

**市町村指定文化財取材票 《表》**

取材日	2023年	3月	15日	(記入者) 久門たつお	
取材参加者	石井	垣内	久門	島田	鶴田
	本井				
取材対象先	天理市：玉英寺の木造阿弥陀如来立像				

所在地	天理市豊田町404、玉英寺(ぎょくえいじ)				
所有者(取材 対応者)名	鎌房広明住職、檀家総代の**		連絡先 ***		
	**さん(個人情報秘匿)		PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など：玉英寺				
市町村 指定文化財	彫刻	1躯	木造阿弥陀如来立像 2001(平成13)年3月26日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	平安時代後期の温かな雰囲気なたたえた「都ぶり」を示す。				

**文化財の状況**

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	本堂に消火器を配備。火災感知器等は設けていない。	周辺に檀家が集まっていて、万が一の場合は対応できると思われるが、早期に覚知できる火災感知器の設置が望ましい。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	町内でアライグマが出没し、昨年畑を荒らされたため、市から捕獲用具を借りて1頭を捕獲した。現在のところ、お寺に被害は出ていないが、檀家の方々と連携し警戒していき	アライグマにより建物などに被害が出ないことを祈りたい。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	寺伝などによると、本尊の木造阿弥陀如来立像は江戸時代の宝永期と文政期に修復されている。現在の本堂は1934(昭和9)年の再建で、2003(平成15)年に檀家の寄付金などを元に屋根瓦の葺き替えを行なった。檀家は約60戸で、境内の植木は檀家の皆さんの奉仕できれいに剪定されていて、お寺を大切にしている思いが伝わってくる。	

**取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)**

玉英寺と檀家会で1992(平成4)年にお寺の沿革を冊子にまとめた。天理市田部町にある浄土院(浄土宗)の本尊、木造阿弥陀如来立像も天理市教育委員会から同じ2001(平成13)年3月26日に文化財指定を受けている。玉英寺の指定文化財と似た温かな雰囲気をたたえる「都ぶり」の作風とされ、定朝系仏師との関係も含め今後の比較研究が注目される。

市町村指定文化財取材票 <<裏>>

取材日	2023年	3月	15日	(記入者) 久門たつお	
取材参加者	石井	垣内	久門	島田	鶴田
	本井				
取材対象先	天理市：玉英寺の木造阿弥陀如来立像				

<写真掲載許可済み>

文化財指定名 木造阿弥陀如来立像	
木造阿弥陀如来立像 (「天理市の佛像」から)	同左
	
玉英寺本堂	玉英寺山門
	
文化財の由緒・説明板の有無など	所有社寺や地域（廃寺など）の歴史や特徴等
<p>天理市教育委員会発行の「天理市の佛像」によると、阿弥陀如来立像はヒノキの寄木造・漆箔で作られており、高さ約97センチ。温和な雰囲気から平安時代後期の制作とみられている。全身の均斉がとれており、衣文線も丁寧に表現されている。脇侍の観音菩薩立像、勢至菩薩立像との三尊像。文化財指定は阿弥陀如来立像のみで、説明板はない。</p>	<p>寺伝などによると、平安時代後期から鎌倉時代にかけて、この地の有力者の豊田氏の娘・玉英が出家して福音寺を創建。その後、同寺は何らかの事情で大破し、室町時代後期に福音寺とは別の現在地に玉英寺が建立された。本尊の阿弥陀如来立像は福音寺から玉英寺に引き継がれて祭られてきたと伝わる。</p>